

卒業生からのメッセージ

充実した大学生活



教育学部4年
山崎 哲平

香川大学に入学して4年が過ぎ、いつの間にか卒業の時を迎えている自分の姿があります。今、こうして大学生活を振り返ってみると、数多くの経験をする事ができ、その1つ1つの経験が私自身を成長させてくれる糧となったのだと思っています。

充実した日々の講義では、自分の専門性を磨くことができました。教育実習では、楽しいことばかりではなく教育現場の厳しさを知り、自分の力のなさに涙したこともありました。そんな時、優しく接してくれる子どもたちに囲まれ、元気をもらい、教職の素晴らしさを身にしみて感じることができました。学生ボランティアもさせていただき、小学校の先生方から様々なことを学ばせていただいたことも貴重な経験の一つです。

また、所属していた陸上競技部では、グラウンドで仲間と共に汗を流し、自己を鍛えることができました。主将という立場も経験し、組織をつくっていく楽しさやそれに伴う苦勞を知り、支えてくれる仲間の大切さにも気付くことができました。大学生活の集大成となる卒業論文の執筆にあたって、テーマ探しから完成するまでに数多くの人と出会い、たくさんの支えをいただきました。

後輩のみなさんに「人生は求道の連続なり」という言葉を紹介します。これはお世話になったある先生からいただいた言葉で、私の心の支えとなっています。何事にも自分から積極的に挑戦していく姿勢を大切に、残りの大学生活でたくさんの方に自らチャレンジしてみてください。きっと充実した生活を送れると思います。最後になりましたが、大学生活を支えてくださった先生方、家族、友人に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

卒業生からのメッセージ



法学部4年
山下 悠希

2回も留年し、やっと卒業まで辿り着いたこの私が皆さんにお伝えできることはごく限られたものであると思います。しかし、私と同じような学生生活を送っている皆さんに対し、少しでも何らかの参考にならばと思ひ筆をとりました。

6年にも及ぶ学生生活において学業が占める割合は非常に小さなものでした。入学から1年間は屋島寮での活動を、それ以後はアルバイトを理由に学業を疎かにする毎日を送っておりました。入学時には誰しもが抱くであろう夢…いつの間にか見失っていました。「大学生」という肩書きと、親からの仕送りに安寧していました。もっとも、「余計な2年間を費やしてしまった」「4年間できっちり卒業すべきだった」という自責の念に駆られてばかりかといえばそうでもありません。家族をはじめ、多くの方にご迷惑・ご心配をおかけしたうえ、反省の態度すら十分に示していない私は社会的には決して立派なものではなく、どこまで悠長で自分勝手なんだと言われれば、返す言葉もありません。

しかし、この2年間があったからこそ、多くの方との出会いを通して「自分」というものについてじっくり考えることができたと思います。仮に4年間で卒業し、自分が何をしたいのか、どのような人間になりたいのかという確固たる意志を持たぬまま社会に出れば、途中で何もかも嫌になり全てを投げ出すかもしれません。

私の場合は結果的に4年間では足りませんでした。短く終わるに越したことはありませんが、要は期間の長短よりも中身の濃淡を意識し、日々の生活を送ることが大事であると思います。時間は大いに与えられています。学生生活を活用し、今しかできない自分なりの何かに明け暮れることもまた、これからの長く険しい人生に向けての充電になるかと思ひます。

4年間を振り返って



法学部(夜間主)4年
佐野 卓也

まず、お世話になった先生方、事務職員のみなさん、そして生協の職員のみなさん、4年間本当にありがとうございました。

私が本校に入学しようと決めたのには、仕事上の要請と大学生活へのあこがれがあったからです。私の職場では多少の法律を扱っており、そのことからもっと深く法律の基礎を学びたいと思いました。また、転勤を免れるという思わぬ副産物もありました。人は人生で壁にぶつかったり、道に迷うと、そこに師があらわれるという言葉がありますが、私にとって入学が師に巡りあったということだったと思います。仕事においても、生活面においても、法律を学んだことが生かされていると感じることが多くなりました。今後は、学んだ知識をもっと生かせるよう自身を高め、いろいろなことに興味を持ち、資格試験などにも挑戦していきたいです。

4年間は短かったですが、その中で良い出会いにも恵まれました。同じように生活を送る多種多様な仕事を持つ皆さんと接点を持ち、勇気づけられることが多々ありました。感謝です。

在校生の皆さんへ、人間一人ではたいしたことはできません。どうせたいしたことないなら、色々なことにチャレンジしてみたいはかがででしょうか。4年間は短いし、勉強等で忙しいと思いますが、永い人生の中できっと役に立つと思います。

卒業生からのメッセージ



経済学部4年
西畑 昌美

私の生き方を変えたのは経済ゼミ連でした。3年の春、あのポスターに出会わなければ、今の私はなかったと言っても過言ではありません。「香川大学経済学部ゼミナール連合協議会に入りませんか？」

経済学部生には既に聞きなれた組織(であってほしいと願うばかりです)、通称「経済ゼミ連」。活動内容は、主に学内企業説明会の開催と討論大会。私は平成17年度の委員長を務めました。なんとなく香川大学に入り、なんとなく過ごし、なんとなく学び、常に「なんとなく」という言葉と共に生きてきた自分の人生を変えるチャンスだと思いました。「何がどう変わるかはわからない、でもきっと良い方向には向かうはずだ。」

実際、委員長という立場は、想像以上に多忙でした。組織内の人間関係、企業人事・大学・OBとの関わり、様々な課題が半年程の間に山積みになり、投げ出したくなることもありましたが、それでも続けられたのは、仲間と先輩の支えがあったからです。その後、無事に第一希望の企業から内定をいただき、経済ゼミ連に後輩が入り、次の代に移りました。しかし、自分が先輩となって痛感したのは、人に物事を教えることの難しさでした。

卒業を控えた今、経済ゼミ連で学んだことの中で最も重要だと感じるのは、「人との関わりほど難しいことはなく、強いものはない」ということです。私が経済ゼミ連の先輩を心から尊敬するように、私も後輩に尊敬される先輩であれたなら、これほどまでにうれしいことはありません。

経済ゼミ連に入って変わった生き方。それは、「縁を大事に生きる」ということ。大学生活で関わった全ての人々に感謝の気持ちを伝えたいです。そして、最も長く繋がっている「縁」、家族への感謝の気持ちを忘れずに、4月から新しい人生を一步步確実に歩んでいきたいです。

4年間を振り返って



経済学部(夜間主)4年
山本 信幸

”光陰矢の如し”この言葉をつくづく実感させられた4年間でした。期待と不安を抱きながら迎えた入学式が昨日の事のように。それほど充実していたということでしょう。入学当初は、仕事をしながら勉強の時間が割けるのか、夜間主といっても多くは現役世代のためうまく馴染めるのか、などといった不安がありました。しかし、社会人を受け入れる体制が万全に整っていたことや、周りの温かい人達のおかげで、そのような不安はいつのまにか吹き飛んでおり、本当に有意義なキャンパスライフを送ることができました。

香川大学で多くのことを学びました。なかでも演習Ⅱで培われた能力は、は、今後の人生において大いに役立つものと思います。また、目標と意欲を継続して持ち続けること、さらに、時間配分と日々の努力の大切さを改めて実感させられました。

夜間主において演習Ⅱは必修ではありませんが、現役世代の学生は是非、履修すべきでしょう。必ず今後の糧になることと思います。そして何事にも幅広い視野をもって接して下さい。また、挑戦しつづけ、決して諦めないということを忘れないで下さい。今後、みなさんが香川大学で成長していき、経済発展に寄与していくことを期待しています。

最後になりましたが、香川大学に夜間主コースというすばらしい制度があること、入学することを快諾してくださった会社、共に支えあい共に学んだ仲間、数々の指導をしてくださった教員方、なかでもゼミにおいて、濃く、熱い指導をしてくださった吉田教授、そして、今まで育ててくれた両親と励ましてくれた家族に心から感謝の意を表すると共に、最後の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

学生生活を振り返って



医学部6年
渋谷 信介

2003年4月に3年次に学士編入学して4年が経ち、卒業を迎えようとしています。4年間で長かったのか短かったのか、正直よく分かりませんが、印象として、決して「アツという間」では無かったのは、きっと、私にとって2度目の大学生活も充実していたという事なのだろうと思います。

入学当初は、10歳ほど年齢の違う同級生たちと上手くやっていたのだろうかという不安がありましたが、幸いにも温かく迎え入れてもらえ、仲の良い友人もできました。飲み会でバカ話に興じたのを、昨日の事のように思い出します。卒業後も引き続きバカ話ができればと思います。

入学前に思いつきもしなかった事の一つは、病理学に強い興味を覚えた事です。阪本先生をはじめとする炎症病理学教室の先生方、羽場先生をはじめとする病理部の先生方には、勤務時間内外を問わず、病理学の側面から医学について格別のご教示を賜りました。長時間、顕微鏡を覗いてもあまり疲れなくなったのは大きな収穫です。

学生生活(のみならず、これからの人生も)楽しんでナンボだと思います。試験や就職活動など、一見ストレスフルな場面でも、楽しみはゴロゴロと転がっている気がします。それを見出す目を、気持ちに余裕のある学生の中に養う事ができると良いのではないのでしょうか。働き始めると、今よりも心のゆとりが少しだけ減りますから。

最後になりましたが、講義、臨床実習を通じてお世話になった沢山の先生方、同級生、サークルの先輩後輩の皆さん、そして家族に心から感謝いたします。ありがとうございました。

卒業生からのメッセージ



工学部4年
香川 恵一

この香川大学に入学して、はや4年が経ちました。この文章を書きながら思い出に浸りつつも、楽しかった学生生活が早くも終わろうとしています。4年間というのは本当にあっという間で、ここでは書きつくせない思い出が心に残っています。友達できるかなあとか、アルバイトは何しようかなあとか不安と楽しみが入り混じった入学当初でしたが、今になってみると、充実した二度と経験のできない貴重な時間でした。

大学生活といえば、一人暮らし、サークル活動、アルバイト、そして勉強かなって思います。1年生の頃は授業内容に戸惑いながらも、徐々に慣れてきて、サークルやアルバイトを通じて人脈が広がり、一人暮らしの充実感を感じる時だと思えます。2年生は、授業も専門的なものが増えてきて、難しい内容になると授業に出るのが嫌になり、授業内容を理解するのに苦しむことも増えました。3年生になると、就職活動を控えて、初めて自分の将来と真剣に向き合った気がします。そして集大成の4年生、卒業研究が始まり、研究室で友達や先輩、先生方と協力しながら実験をしたり、試行錯誤を重ねながら論文を作成したりする毎日です。うまくいかないことも多々ありますが、みんなと手を組んで物事に取り組むことの素晴らしさを身にしみて感じると思えます。僕の大学生活はこんな平凡なものでしたが、社会人になってもきっと僕を支えてくれる糧になるでしょう。

最後になりましたが、僕の大学生活4年間いつも楽しませてくれた友達、何をするにも模範になってくださった先輩、様々なことに対しご指導してくださった先生方、本当にお世話になりました。そして、僕の大学生活を素晴らしく貴重なものにすることができたのは、家族の協力、支援があったからこそです。心から感謝しています。これから社会に出て、壁にぶつかり、悩むこともあると思います。そんなときは、またみなさんの力を借りると思いますが、今後ともよろしく願います。

出会いの4年間



農学部4年
西中 聡子

いよいよ卒業を目前に控えた今、私の大学生活を振り返って1番に思うことは、数々の出会いに対する感謝です。

この4年間の内、富士山や四万十川、太平洋など、日本全国様々な地へ旅しました。そこでバーベキューの火を分けてくれたご家族、その土地の魅力を存分に語ってくれたおじいさん、そんな人達との出会いが嬉しくて、今でも私の胸にしっかりと焼き付けられています。また、いつも私の体調を気遣ってくれたアルバイト先の店長、私の卒業研究を大きくサポートしてくれた先輩、就職活動で真剣に私を見つめてくださった企業の方々、ときには親のように私の成長を温かく見守ってくださった先生方、そして勿論、そんな貴重な学生生活を共にした友人達は、その出会いに必然性も感じています。共に苦しみ、共に喜び、共に支え合って、どんなことでも共有し合ってきたからこそ、今の関係が築けているのだと思います。何でも話し合える、私の『生涯の友人』にしたいと思っています。

大学生活というのは、自らの自主性を伸ばして色々なものに目を向けることができる、学生生活の中でも最も貴重な期間です。自分を見つめ直すことも出来れば、新たな自分を発見することも出来るでしょう。その中で、人との出会いは必要不可欠であると思います。私の大学生活において、こうした出会い全てが今の私を作り、私の宝物となり、そして今後の私の人生を支えてくれることでしょう。私は今、この4年間があったからこそ、大きな期待を抱いて社会へと足を踏み出せるのだと思います。私が出会った全ての方々、素敵な出会いを本当にありがとうございました。

これから大学生活を送られる皆さんが、たくさんの人々と出会い、その喜びを自分の成長につなげていかれることを心より願っています。

人生の宝物



教育学研究科2年
小堀 麻緒

編入という形で初めて香川大学に足を踏み入れてから早4年。修了式を目前に控えた今、振り返ると、多くの大切な仲間を支えられた貴重な時間が心に残っています。特に大学院に進学してからの2年間は、人生の中で欠かすことのできない時間であったと思っています。

念願の小学校教諭免許状を取得するために単位を取り、それに平行して修士論文作成のための研究を続けることは、時に投げ出したくなることもありましたが、しかし、今思えば、自分なりの論文を作成することができたのもこの2年があったからだ、多くの勉強をすることができたことに感謝しています。

また、附属高松小学校で非常勤講師として教壇に立ち、子どもたちから「先生」と呼ばれることに少し照れくささを感じながらも、子どもたちと共に学ぶことの楽しさを知ったこと、レオマおもちゃ王国での遊びのプロジェクトへの参加、ティーチング・アシスタントなど、大学院へ進学していなければできなかったことを数多く経験することができました。

そして、共に学び、共に励ましあい、苦しみを分け合った仲間たちに出会えたことが人生の宝物です。この2年があったからこそ、自分の未熟さを改めて感じ、自分を見つめ直すことができたと思っています。

最後になりましたが、未熟な私に最後まで丁寧なご指導をしてくださった先生方をはじめ、時には厳しい愛情を与え続けてくれた家族や多くの友人に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

私の大学生活



法学研究科2年
近藤 知史

私は、社会人として大学院に入学しました。入学願書を出すにあたっては、大学と仕事の両立は難しいのではと不安でした。しかし、職場や家庭の協力が得られたこともあり、思い切って受験を決意しました。

大学生活の2年を振り返ると、あっという間(周りの人たちは、やっと思っているかもしれませんが…)に過ぎてしまったように感じます。しかし、良き先生、良き仲間達に出会えたことにより、とても充実したものになりました。

講義で特に印象に残っているのは、ゼミでのディベートと専門職の先生方の講義です。ディベートは経験したことがなかったので、とても新鮮に感じました。また、専門職の先生方の講義では、専門家ならではの知識と視点、実務での経験、仕事をする上での姿勢などを聞くことができ、専門家を目指す私には学ぶことが多く、将来の参考となりました。修士論文は先生方のご指導の甲斐あって、苦労はしましたがなんとか仕上げることができました。

大学生活を終えるにあたり、私から一言伝えたいことがあります。大学院への進学を思い悩んでいる社会人の方、一歩前へ踏み出してみてください。決して楽ではありませんが、きっと達成感と満足感を得ることができるでしょう。

最後になりましたが、お世話になった先生方、良き仲間達と私の我儘を聞いてくれた家族に謝意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

大学院で学んだこと



経済学研究科2年
山根 晋伯

香川大学大学院で過ごした2年間、沢山のことを学び、経験しました。なかでも、物事を考える力、「論理的思考力」が身についたことは、非常に有益であったと思います。物事を様々な視点から捉えて客観的に分析する力。そして、論理的に議論を展開する力。この2つの力はとても大切で、これからの人生において、非常に強力な力になってくれると信じています。

現在、香川大学では、学部・院を問わず、みなさんそれぞれが違った分野について学ばれていることと思います。それぞれの分野の専門的な知識を身につけ、様々な経験をすることは大切なことですが、それ以上に大切なのは、考える力を身につけることではないかと私は思います。学ぶということは、生涯つづきることのないテーマです。しかし、大学で学べきことは物事の考え方であって、知識はそれに伴うものであると考えます。異なる複数の視点から考えることは、問題解決の一步になるはずですが、

香川大学には、素晴らしい先生方が沢山いらっしゃいますし、とても恵まれた環境にあります。卒業を迎えた今、香川大学大学院で学んだ2年間という期間は、人生においてとても有意義な経験であったと私は確信しております。

最後になりましたが、恩師である小宮一高先生の存在なくしては、私のこれらの経験はなかったと思います。この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

修了生からのメッセージ



医学系研究科4年
藤本 千草

黒い網に収集されたおびただしい数の蚊達。「はい、これを分けて下さい。」これが私の院生としての一発目の作業だったと記憶しています。蚊の分別で幕を開けた大学院生活に夢と希望を抱いていた4年前の私。4年経った今、その期待を裏切ることなく、数知れない貴重な経験を得た私がいまいます。

①留学生との出会い。私が所属した研究室に二人の留学生がやってきました。1人はバングラデシュ、もう1人はパプア・ニューギニアからです。彼らとの出会いは私の生活を一変させ、研究室も大学院兼英会話教室に姿を変えました。

②国際学会への参加。スコットランドに行ってきました。初の英語圏で自分の発音の未熟さに直面。「カプチャーノ」が伝わりません。何度言っても返事は「sorry?」。一度「OK!」とすんなり通じ、ガッツポーズの私の前に出てきたのは「紅茶」。「a cup of tea」と聞こえたの?おとなしく紅茶を飲みました。そして、記憶にも新しい“ヒーロー空港のテロ騒動”。まさに私達が帰る2日前の出来事で、フライトもキャンセル続出、空港はパニック状態。臨機応変に立ち回る先生に、尊敬の念が一層強くなった瞬間でした。

③マラリア媒介蚊の採集。ソロモン諸島に行ってきました。現地の村にて蚊帳を張り、寝袋で寝たあの体験は生涯忘れることはないでしょう。蚊に刺されないよう、常に緊張感がつきまとった2週間でした。

そんなこんなで無事に大学院生活を終えることができましたのも、全て私を支えてくださった多くの方々のおかげです。本当に感謝しています。素敵な4年間をありがとうございました。

学生生活を振り返って



工学研究科2年
土井 裕司

私は、学部で2年、大学院で2年の編入組でした。大学では必修単位の取得とレポートに追われ、気が付けば卒業という状態でした。本当にあっという間でした。大学での学生生活では、知識を得る機会としては本当に充実した日々であったと思います。次々と押し寄せる知識の波を、新たな知識として吸収しようと悪戦苦闘していましたが、しかし、大学で「自分が望んでいた知識」が得られたのかと言われると「どうなのだろう?」という気がしてなりませんでした。

大学院への進学を決めたのは、自分自身の学業に対する姿勢をもう一度整理し、これから先、社会人として生きていくための区切りとしたいと考えたからです。

大学院では興味のある専門分野について、より深く学ぶ機会を得ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。また、学会での研究発表という経験は、私にとって得るところが大きいものであったと思います。他大学・社会人の方々と肩を並べての発表は大変緊張し、失敗も決して少なくありませんでしたが、この経験を通じて、自身の研究を客観的に評価できるようになり、研究に対する姿勢を改めて問いただす良い機会となりました。

結果として、私にとって大学院生活は大いな実りになったと実感しています。在学生の方は、これから就職・進学という決断を迫られることだと思いますが、その中でどちらを選択すべきか悩んでいる方もいると思います。自身を振り返って思うところがあるならば、あえて大学院を選択するのも1つの手だと思います。大学院で経験したことは、これから先の人生において決して無駄にならないと思います。

修了生からのメッセージ



農学研究科2年
星野 勝弘

学部生、大学院生として香川大学で6年間過ごし、香川大学について特に印象深かったことを二つ述べたいと思います。

まず、他国立大と比べ大学構内が狭いということです。大学構内が狭いというマイナスイメージにとられ易いのですが、むしろ大きなメリットがあると思います。それは、速やかに授業から授業への移動ができるので、遅刻する心配がいらす、労力もあまりかからないということです。構内が広い大学ですと、次の授業を受けるために全力で自転車をこぎ、30分かかって移動しなければならないこともあるそうです。また、構内が狭いと、サークル活動に携わらずとも、多くの人に出会えることもメリットの一つではないでしょうか。

そしてもう一つは、大学業務に携わっている人の対応に問題があるということです。他学部の先輩、同輩、後輩と大学について話したのですが、どうも全学部で共通しているようです。中には親切・丁寧に対応してくれる人もいますが、それはごく一部で、ひどい場合、不親切だけでなく露骨に嫌な顔をして対応する人もいるくらいです。現在、香川大学は学生中心の大学へ見直していこうとしているようですが、学生の立場から見た視点で、業務や対応などを見直していく点も多くあるのではないのでしょうか。このような改善を行っていけば、香川大学のさらなる発展に繋がっていくのではないかと思います。

最後になりましたが、私の学生生活を支えて下さった先生方、友人、家族に心より感謝します。ありがとうございました。

三足のわらじは履きこなせたか!?



地域マネジメント研究科2年
大倉 恵美

仕事と家庭、プラス学業。当研究科に入学した一昨年の春から、この三足のわらじを履く生活が始まりました。

その際、心に決めたことは、「家庭」、「仕事」、「学業」の三足のわらじを履きこなすということです。そして、この2年間で何より苦労したことは、残業でも試験でもなく、家庭、特に日々の夕食作りでした。

仕事が終わって自宅に帰り、夕食の支度にあてられる時間は、6時間目の授業を受けようと思ったら、僅か30分しかありません。6時間目に受けた授業はあるし、かといって「最も大事な家庭」をいきなり疎かにするわけにもいきません。そこで登場したのが文明の利器。今までお湯で茹でていた野菜を電子レンジで加熱すれば、シチューやカレーといった煮込み料理も15分で出来上がり!

三足目の学業が加わったことで、このように思いもかけず家庭におけるマネジメント能力が上がっただけでなく、仕事においても時間の使い方が変わってきたように思います。全体として、限られた時間を有効に使い、メリハリのある生活を送るように心がけることによって、今までにない自分を発見できたような気がします。

時々脱げそうになるのを履き直しつつ、何とか無事2年間履き続けることができました。振り返れば、三足履いたからこそ得られたものも大きかったのではないのでしょうか。これからは、この2年間で付けた自分なりの足跡を、次の新たな一步に繋げていきたいと思っています。

ロースクール生活を振り返って



連合法務研究科3年
中野 誠司

3年前、日本で初めて法曹養成のために法科大学院制度が新設され、それに伴い当研究科が設置されました。私が当研究科の一期生として過ごしたこの3年間は、厳しい勉強に明け暮れた一方、志を同じくする学友と過ごした楽しい日々でもありました。

理系の学部を卒業し、会社勤めをしていた私が初めて六法を開いたのが、ちょうど3年前になります。慣れぬ法律用語に戸惑い、途方に暮れていた私を励まし支えてくれたのが、ほかでもない学友たちでした。互いに切磋琢磨してきたことで、今では皆当時とは見違えるほどの成長を遂げることができました。

近年、法曹人口の増加、裁判員制度の導入など司法制度は変革期にあります。それに伴い、これからの法曹に求められるスキルもまた変わってきているのだと思います。正確な法的知識や、雑多な事実から重要な要件事実を見極める能力を有することは、法曹が法曹たり得るための大前提ですが、それ以外にも、社会・経済への深い造詣、市民感覚などを持つことも重要です。単に法律を適用しただけでは果たせない、より良い紛争解決方法を模索できる法曹こそが、これからの時代に求められているのだと思います。

法科大学院を卒業する私には、間近に新司法試験が控えています。必ずやこの難関を突破し、当研究科で学んだことを生かして、誰からも信頼される法曹になりたいと思っています。

最後になりましたが、3年間熱意を持って私たちを教え導いてくださった諸先生方には、心から感謝し、厚く御礼申し上げます。